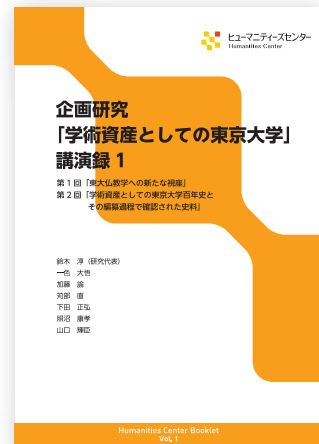
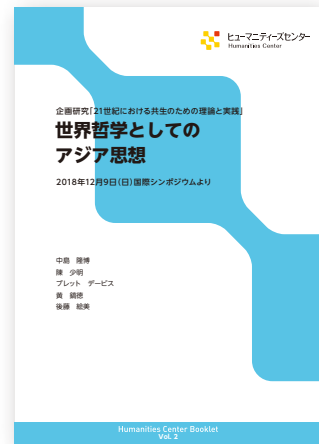


東京大学ヒューマニティーズセンターには、人文学及び隣接諸分野に関する新たな研究協創を目指した刊行物として「Humanities Center Booklet シリーズ (ISSN : 2434-9852)」があります。この

発行は、本センターで最も意の用いられた事業の一つです。現在、発刊されたブックレットは、以下のとおりです。



Vol.1 企画研究「学術資産としての東京大学」講演録1 (第1回「東大仏教学への新たな展望」; 第2回「学術資産としての東京大学百年史とその編纂過程で確認された史料」) 2019年8月31日発行



Vol.2 企画研究「21世紀における共生の理論と実践」世界哲学としてのアジア思想 (2018年12月9日国際シンポジウムより) 2019年9月15日発行



Vol.3 企画研究「学術資産としての東京大学」講演録2 (第4回「古くて新しい学術資産—東京大学の埋蔵文化財—」) 2019年9月30日発行



東京大学ヒューマニティーズセンター (HMC)

〒113-8654 文京区本郷7-3-1 東京大学総合図書館内4階
ヒューマニティーズセンター事務局
Tel : 03-5841-2654 (EXT. 22654)
Email: humanitiescenter.utokyo@gmail.com
URL: <https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/>

Humanities Center News Letters



[LIXIL潮田東アジア人文研究拠点(LUI)]

- (1) 公募研究A (個人研究:I期 2018.10-2019.9)
- (2) 公募研究A (個人研究:III期 2020.10-2021.9)
- (3) 公募研究B (国際研究集会開催支援:2020年1月~6月開催分)

[カンファレンス・レポート1]

[カンファレンス・レポート2]

[オープンセミナー予定]

[おしらせ]

[ブックレット]

[お問い合わせ]



(1)公募研究A(個人研究:I期 2018.10-2019.9)

2018年10月より開始されました「公募研究A」(個人研究:I期)の7件が終了しました。
研究成果報告書の詳細は、こちら (URL: <https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/results-reports/>) でご覧いただけます。

名前	所属	研究課題	海外招聘
葛西 康德	人文社会系研究科(教授)	古典伝統における詩と社会—古代ギリシア・ローマ、中国そして日本の比較研究—	オランダ
松方 冬子	史料編纂所(准教授)	徳川政権の外交—あるいは「外交」以前—	スイス
池亀 彩	情報学環(准教授)	動くアジアと共生の倫理	イギリス
キハラハント 愛	総合文化研究科(准教授)	国連平和活動における犯罪の防止についての法的・社会的検証	イギリス
杉山 清彦	総合文化研究科(准教授)	八旗制を中心とした大清帝国の国制とその形成過程	
岡田 泰平	総合文化研究科(准教授)	アメリカ占領期日本(1945-1952)における軍と性の関係についての社会史的研究	
永井 久美子	総合文化研究科(准教授)	平安女流文学者たちの近代—「良妻賢母」と「美人」と文学	



杉山清彦准教授(総合文化研究科)は、「八旗制を中心とした大清帝国の国制とその形成過程」を課題とした個人研究を行ないました。第1回と第11回のオープンセミナーを担当されました。



岡田泰平准教授(総合文化研究科)は、「アメリカ占領期日本(1945-1952)における軍と性の関係についての社会史的研究」を研究課題とした個人研究を行ないました。第4回と第10回のオープンセミナーを担当されました。



葛西康德教授(人文社会系研究科)は、ヴァネッサ・カッツアート博士(ナーヘン大学)を招聘し、「古典伝統における詩と社会—古代ギリシア・ローマ、中国そして日本の比較研究—」に関する共同研究を行ないました。第5回と第7回のオープンセミナーを担当されました。



松方冬子准教授(史料編纂所)は、ビルギット・トレムルウェルナー博士(チューリッヒ大学)を招聘し、「徳川政権の外交—あるいは「外交」以前—」に関する共同研究を行ないました。第3回、第13回、第19回、第20回のオープンセミナーを担当されました。



永井久美子准教授(総合文化研究科)は、「平安女流文学者たちの近代—「良妻賢母」と「美人」と文学」を研究課題とした個人研究を行ないました。第2回と第14回のオープンセミナーを担当されました。



池亀彩准教授(情報学環)は、ニコラス・ベイツ教授(エディンバラ大学)を招聘し、「動くアジアと共生の倫理」に関する共同研究を行ないました。第6回と第12回のオープンセミナーを担当されました。



キハラハント愛准教授(総合文化研究科)は、マーシャ・ヘンリー准教授(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)を招聘し、「国連平和活動における犯罪の防止についての法的・社会的検証」に関する共同研究を行ないました。第9回、第15回、第16回のオープンセミナーを担当されました。

(2)公募研究A(個人研究:III期 2020.10-2021.9)

公募研究A(個人研究:III期 2020.10-2021.9)が2019年7月に公募され、日本古代史、インド仏教学、中国文化、東アジア開発学、歴史社会学、言語学等を含む12件のプロジェクト(海外招聘付きは10件)を採択しました。2020年10月より、研究活動が開始されます。

ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

東京大学
The University of Tokyo

LIXIL Ushioda East Asian Humanities Initiative

「公募研究(A)」(個人研究)
(助成期間: 2020年10月~2021年9月)

受付締切: 2019年1月1日(金曜) 午後5時

申請受付中

【助成対象研究】
本事業は、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野における研究を助成対象とします。なお、審査によって、共同研究者として国外から研究者を最長12ヶ月招聘することができます。

【助成金額】
① 研究費500,000円(上限)
② 海外招聘費6,000,000円(上限)
③ 研究記念経費(e.g. 非常勤講師の雇用経費や研究協力者への謝金手当等)として、1,500,000円(上限)が追加配分可能。

東京大学総合図書館4階 ヒューマニティーズセンター事務局
Tel: 03-5841-2854 (EXT. 22654)
Email: humanitiescenter.utokyo@gmail.com
<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/news/2019/open-research-2020-2109/>

【カンファレンス・レポート1】

名前	所属	研究課題	海外招聘
稲田 奈津子	史料編纂所(准教授)	金石文資料からみた東アジアの墓葬文化—墓誌・買地券を中心に—	中国
高橋 晃一	人文社会系研究科(准教授)	『瑜伽論記』に見られる新羅僧の唯識教学	韓国
鈴木 将久	人文社会系研究科(教授)	社会主義中国文化の研究	中国
佐藤 健二	人文社会系研究科(教授)	社会調査の比較歴史社会学の構築	中国
矢口 祐人	情報学環(教授)	「情感」としての英語学習とアメリカ～冷戦期日本における英語話者のオーラルヒストリー	アメリカ
藤川 直也	総合文化研究科(准教授)	真矛盾主義的語用論の構築と応用	アメリカ
井坂 理穂	総合文化研究科(准教授)	近代における日本・中国・インドの知識人交流と「アジア」認識	ドイツ
佐藤 仁	東洋文化研究所(教授)	東アジアの経験に立脚した開発学の構築	韓国
キハラハント愛	総合文化研究科(准教授)	紛争下の性的暴力・搾取の刑事的・内部規律的アカウンタビリティにおける国連とアフリカ連合の連携についての研究	ニュージーランド
中澤 恒子	総合文化研究科(教授)	結果構文の意味解釈—交替動詞にみる語彙の意味からのアプローチ	シンガポール
高山 大毅	総合文化研究科(准教授)	古文辞派の修辞と交流	なし
稲葉 治朗	総合文化研究科(准教授)	統語および音韻から見た削除現象の対照言語学的研究	なし

(3) 公募研究B(国際研究集会開催支援:2020年1月～6月開催分)

今期より、公募研究B(国際研究集会開催支援)として、日本国外の学術機関に所属する研究者を招聘し、国内で開催される人文学および隣接諸学分野の国際研究集会を支援する新たな事業を始めました。

2019年10月に学内公募を行ない、3件を採択しました。

名前	所属	研究課題
菱輪 顕量	人文社会系研究科(教授)	第4回東アジア 仏教 大学仏教会議
伴瀬 明美	史料編纂所(准教授)	東アジア諸王室における礼的(逸脱)の諸相
松方 冬子	史料編纂所(准教授)	17・18世紀のインド洋—日本をめぐる海域史研究の広がりのために—

報告者 キハラハント愛(総合文化研究科・准教授)
 会議名 国際平和活動における性的暴力・搾取についてのハイレベルラウンドテーブル会議
 Round Table on Sexual Exploitation and Abuse in Peace Operations
 開催場所 国際連合日本政府代表部(ニューヨーク)



2018年9月3日に、LUI公募研究A(個人研究)の共同研究者であるマーシャ・ヘンリー氏(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・准教授)とともに、国連本部の平和維持活動局とフィールド支援局、並びに国連の法務・人事などの代表を招いてラウンドテーブル式の国際会議「国際平和活動における性的暴力・搾取についてのハイレベルラウンドテーブル会議(Round Table on Sexual Exploitation and Abuse in Peace Operations)」を行ない、国連の幹部職員に対して、国連平和活動における性的搾取・虐待の問題に関する提言を行ない、意見交換をしました。この提言には、国際法的に見て、国連平和活動要員の訴追には、受け入れ国、要員派遣国ともに特権免除の問題がないこと、犯罪と犯罪でない行為を区別する必要があること、国連にも重大な犯罪は訴追する、もしくは訴追を助ける責任があることなどが盛り込まれました。また、より大きな問題として、被害者の保護を第一に考えて医療支援・精神的な支援・司法扶助・コミュニティの整備・被害者が出産した場合の父子鑑定支援や経済的な支援などを実行する一方、加害者の法的責任を問うことによって法の支配の文化を尊重すること、組織として国連の内部文化や研修・人選・広報などの手法や内容について、効果的に被害者を保護し、既存のジェンダー・バイアスを修正するために、包括的に見直す必要があることなどが議論されました。

ラウンドテーブル会議は国連日本代表部で行われ、国連事務次長補であり被害者の権利アドボケートであるジェーン・コナーズ女史と共に企画・運営され、国連から4人の事務次長、1人の事務次長補を含む20余名の幹部職員が参加しました。ラウンドテーブルの内容はこちら(URL: <https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/results-reports/>)からご覧いただけます。

なお、上記のラウンドテーブルに先立ち、報告者と共同研究者のヘンリー氏は、HMCの第9回オープンセミナーで「国連平和活動において性的暴力が許容されている背景：社会学的行動科学の観点から」、ならびに第15回オープンセミナーで「国連のアカウンタビリティ：国連平和活動における性的暴力と搾取—社会的アカウンタビリティから法的アカウンタビリティまで」に関する共同報告を行ない、セミナー参加者から多くの知見を得ることができました。記して感謝申し上げます。

報告者 松方冬子(史料編纂所:准教授)
 会議名 「王の手紙、皇帝の文書:一外交の世界史に向けた韓国、タイ、日本の鼎話の試み」
 Royal Letters, Imperial Documents: A Japanese, Korean and Thai
 Triologue for a Global History of Inter-State Relations
 開催場所 東京大学 伊藤国際学術研究センター



2019年11月29日のHMCオープンセミナー特別回において、LUI公募研究A(研究テーマ「徳川政権の外交—あるいは「外交」以前—」の一環として、タイと韓国から4名の研究者(パーワン・ルアンシン氏、ティエラワット・ナ・ポンペット氏、鄭東勲氏、丘凡眞氏)を招き、「国書」の分析に関する研究報告を仰ぐとともに、前近代の外交の世界史を語るためのプラットフォームを作る国際シンポジウムを開催しました。最初に、報告者(松方)が、19世紀ヨーロッパ型の外交史の外側にある「国書」研究の意義を説明したあとで、4名の招聘研究者に報告してもらいました。



パーワン・ルアンシン氏(チュラーロンコーン大学)は、アユタヤ王統記及びオランダ東インド会社文書に記録された国書の分析を通じて、近世のタイとビルマが如何に対話の道を拓き均衡を維持しようとしたかを探りました。ティエラワット・ナ・ポンペット氏(チュラーロンコーン大学)は、オランダ東インド会社がスア王の治世初頭に対シヤム条約の更新と平和同盟の延長を企図した際、外務・財務大臣(ブラクラン)が、外交上のプロトコルや先例、王の命令などについて会社総督に送った手紙を分析しました。

他方、鄭東勲氏(ソウル教育大学)は、明の皇帝から宦官を通じて朝鮮に伝えられた非公式のメッセージに、公式の文書には出てこない皇帝の個人的な興味が反映されていたことを明らかにしました。最後に、丘凡眞氏(ソウル大学)は、1644年の清の入関以前における朝鮮国王の冊封文書が合壁であったか否かを問い、同時代の記録から実像に迫りました。



このセミナーでは、報告は英語と日本語(鄭氏、原稿を英訳して配布)で、そして質疑は英語で行い、多くのセミナー参加者との活発な議論を行うことができました。

タイに17世紀の漢文史料を扱える研究者なく、韓国に同時期のオランダ語史料を扱える研究者なし、ということで、両者が出会う貴重な機会となったようです。漢語で考える人々と、横文字で考える人々とで、話が合わない可能性も心配しましたが、それは杞憂に終わり、共通点のほうが目立ちました。

出席者45名、うち外国人11名(タイ、韓国、オランダ、ドイツ、アメリカ、台湾)であり、とくにわざわざ台湾大学の研究者が参加してくださるなど、大変国際色豊かなシンポジウムとなりました。日英、日韓の逐次通訳を用意し、トリリンガルの議論にも備えましたが、議論はすべて英語で議論することが可能でした。

東京大学ヒューマニティーズセンター
 第22回オープンセミナー
 顔の実験心理学(1)
 心の中の顔イメージを可視化する
 ▶2020年1月24日(金)17:00-19:00 入場無料(事前登録不要)
 ▶東京大学 伊藤国際学術研究センター3F中教室
 報告者:渡邊伸行(金沢工業大学情報フロンティア学部・准教授)
 鈴木教命(東京大学人文社会系研究科・准教授)

似顔絵検査実験の様子 提供:渡邊伸行先生
 信頼されやすい/きれいな顔 作成者:Prof. Alexander Todorov (tat@princeton.edu/databases)

【概要】
 「あなたの大切な人の顔を思い浮かべてください。」と言われたら、それが家族であれ友達であれ、容易にイメージをすることができそうです。ですが、「それはどんな顔ですか?」と問われたら、他人に分かるように言葉で説明することは簡単ではありません。また、「上記のどちらの顔の人のほうが信頼できそうですか?」と聞かれたら、パッと答えられる人が少なくないでしょう。それは「信頼できる顔」の直感的なイメージがあるからだと考えられます。ですが、「なぜその人の方が信頼できると思うのですか?」とたずねられたら、即座に説明することは難しいでしょう。今回のセミナーでは、こうした「心の中の顔イメージ」にまつわる実験心理学研究の一端をご紹介します。まず、渡邊伸行先生には、目撃者の記憶の中にある顔イメージをコミュニケーションを通じて再現しようと試みる似顔絵検査についてお話をいただきます。次に、今回のセミナーの企画者でもある鈴木教命(東京大学)が、「以貌取人」等の成りにも関わらずなぜ人は他人の性格や能力を顔から判断してしまうのかについてお話しします。

問合せ:東京大学ヒューマニティーズセンター事務局
 Tel: 03-5841-2654
 E-mail: humanitiescenter@u-tokyo.ac.jp
 URL: http://hmc.u-tokyo.ac.jp/

東京大学ヒューマニティーズセンター
 第23回オープンセミナー
 博物館の原理に関する研究—空間・集い・経験(1)
 ▶2020年2月7日(金)17:30-19:30 入場無料(事前登録不要)
 ▶東京大学 伊藤国際学術研究センター 地下1階 ギャラリー1
 https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/life/ja/access.html

【出演者】
 ◆報告者:東京大学大学院文学部・◆司会:「東日大生生活」/東京大学大学院文学部
 ◆コーディネーター:伊藤国際学術研究センター ◆司会:「東日大生生活」/東京大学大学院文学部
 ◆コーディネーター:伊藤国際学術研究センター ◆司会:「東日大生生活」/東京大学大学院文学部

博物館の原理に関する研究—空間・集い・経験(1)
 フォト:「東日大生生活」/東京大学大学院文学部
 フォト:「東日大生生活」/東京大学大学院文学部

【1】いざいざ、文化経済圏、リーディングミュージアム構想等を発表し、博物館の経済的価値に注目しているが、それに對し、経済圏に置かれた博物館の文化的価値を如何にするべきかを問う。しかし、現状はこの両者の二重対立が多く、幸甚もはらむ「博物館とは何か」という問いへの考察が深められていない。本研究はこの問いに注目する。
 博物館の原理については、近年「コレクション」や「公共性」などの観点からの考察がなされているが、本研究では「空間」「集い」「経験」という概念に着目する。何らかの理由をもって開かれた空間に、人やもの、情報が集い、経験が生まれる。これをコレクション以前の博物館の、さらには博物館を含む文化施設の根幹にある原理と捉え、博物館という存在を構成する原理についての研究を進めている。これを通じて、博物館の「空間」「集い」「経験」とは、空間とは何かといった、博物館の原理・歴史に関する問いを提示する。中核となる本セミナーではそこから見てきた問いを提示する。
 また、本研究は、北原憲仁氏(京都大学文学部・動物学)との対話の中で進めてきた。氏は「博物館フィールドミュージアム」の運営に関わり、動物、地域、人を「みる」ことを重視し、博物館の根本原理について考察を深めている。本セミナーでは、北原氏、および野村フィールドミュージアムに関わってきた方々も参加し、対話の中で進めていきたい。

問合せ:東京大学ヒューマニティーズセンター事務局
 Tel: 03-5841-2654
 E-mail: humanitiescenter@u-tokyo.ac.jp
 URL: http://hmc.u-tokyo.ac.jp/

新型コロナウイルスの感染拡大の状況に鑑み、
 2020年4月以降のHMCオープンセミナーの開催日等は未定です。
 開催の日時・場所につきましては、検討の上、改めてご案内させていただきます。

【おしらせ】

- 「公募研究A」(I期)の永井久美子准教授の研究が、東大HP UTokyo FOCUS「世界三大美人言説から見えてくる人々の「認識」の作られ方—小野小町は本当に美人だったのか?」で紹介されました。
https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_00096.html
- 「公募研究A」(I期)のキハラハント愛准教授の研究が、東大HP UTokyo FOCUS「国連の不正を正す」で紹介されました。
https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_00153.html
- 川村朋貴学術支援職員が、東京大学リサーチアドミニストレーター(URA)に認定されました。
<http://senmon-jinzai.sakura.ne.jp/site/view>